

地域説明会での主な意見等のまとめ

各会場共通して、【新設時期】、【場所】、【進め方】等の質問が中心にありました。主なQ Aについては、以下のとおりとなります。

■新設時期について

- Q 第1期（やまと学園）は何年を目処に考えているのか。（塩田・三輪）
- A 確たる時期を申し上げるのは困難であるが、他の自治体の例では、協議開始から施設整備が完了するまでに、おおむね5年から7年の時間を要している。
- Q スピード感を持って進めてほしい。もっと早く進めてほしい。（岩田・三輪）
- A そのためにも、準備委員会を早期に立ち上げ、協議を進めていきたい。

■場所について

- Q できるだけ早く新設を実現するためにも、教育委員会から場所の案を示した方が良いのでは。（塩田・東荷）
- A ゼロからスタートでは時間がかかることから、ある程度、候補地を絞り、メリットやデメリットを示ししながら準備委員会で協議していきたい。
- Q 現校地の他に、大和総合運動公園やその周辺はどうか。（岩田・三輪）
- A 方針に基づき、4小1中の現校地を第一に検討するほか、学校施設の要件を備えられる場所があれば候補に挙がる。
- Q 行政主導で進めるべきでは。（三輪）
- A 学校施設は地域づくりの核となるような施設で、皆様とともに多くの時間を過ごしてきた施設。そのため、地域の皆様とともに考えていきたい。

■進め方について

- Q 学校運営協議会で反対された場合はどうするのか、また合意の方法は。（塩田）
- A 理解を得られるよう、丁寧に説明を重ねながら進めていく。合意形成の方法については、学校運営協議会で決定することを予定している。
- Q 新設に向けた今後の進め方について、準備委員会の人選をよく考えてほしい。また、未就学児の保護者など次の世代の方の声をしっかり聞いてほしい。（岩田・三輪）
- A 地域説明会での皆様のご意見も参考にしながら、人選を進めたい。

■小学校の再編・複式学級の解消について

Q 施設の整備は後で良いから、早く小学校を再編し、複式を解消してほしい。(塩田・岩田・東荷)

A 小学校を再編するには、新設と同様に学校運営等の協議や準備の期間が必要となることなどから、現時点においては、現在実施している合同学習の充実を図ることで対応していきたい。こうしたご意見は、今後設置する準備委員会等でもいただくと考えているので、準備委員会の中で1つの方向性をお示ししていきたい。

■新設のあり方・是非について

Q それぞれの学校の特色（文化、校歌など）を残してほしい。(塩田)

A 準備委員会の協議の中で、どのように引き継いでいくのか考えていく。なお、昨年度から交流学习の中で石城太鼓を取り上げるなど、大和全体として文化・伝統に関する交流を進めている。

Q 小中一貫教育にはデメリットもあるのではないか。(東荷)

A 大きな集団になることが苦手な子どもへの対応が今後の課題と考えている。

Q 施設一体型小中一貫やまと学園について、反対している地域はあるか。(東荷)

A 塩田、岩田、三輪で開催した説明会では、いずれも反対意見はなく、早く進めてほしいという意見が多かった。

Q 施設一体型にすると、小学生と中学生が施設を共有することになるため、いかななものかと考えている。(三輪)

A 施設については、子どもたちの安全を第一に考えることを前提として、準備委員会での意見や専門家の意見を基に基本計画を作成していく。

■その他

Q どういう子どもの姿を目指しているのか。(岩田)

A 「知・徳・体の調和のとれた生きる力」を身に付け、これからの激変する社会にあっても、たくましく、自分らしく幸せに生きていってほしい。また、やまと学園でそうした力を育むことができる教育環境をつくっていきたい。

Q 「知・徳・体の調和のとれた」の徳とはどういう意味か。教育には競争も必要ではないか。(三輪)

A 徳とは、「思いやり」や「感謝の気持ち」、「忍耐力」、「責任感」など幅広いもの。競争により子どもたちが切磋琢磨することも、教育上重要なことだ。

Q 光井中学校、浅江中学校を長寿命化改修するということは、光井学園とあさな

え学園は中学校の現校地に設置するということか。(三輪)

A 光井学園とあさなえ学園の場所については、第3期の準備委員会で地元の方と協議を重ねて決定していく。

Q 「複式学級は半分しか学力が付かない」と新聞で読んだが、本当か。(東荷)

A 複式学級について、デメリットがクローズアップされることが多いが、1人ひとりに先生の目が届きやすい、複数の役割が回ってくることで主体性が身に付きやすいなどのメリットもある。また、学習面では、複式学級での授業のあり方がしっかり研究されており、先生の間で共有されているため「複式学級だから半分しか学力が付かない」とは言えないと考える。

Q 教育予算が少ない、地域改革が必要では。(三輪)

A 財政について関係部署としっかり協議をしながら、やまと学園の設立に向けて準備を進めていく。

Q 財政面の裏付けとして、基金も1つの手段であると考えている。(東荷)

A 学園の場所や、施設をどうしていくかが決まっておらず、金銭的・財政的な部分は、現時点では数字を申し上げることができない。

Q 中学校を3校にしては。(東荷)

A 今回の方針では、5校の中学校区を単位に進めていくこととしており、この方針に沿って取組を進めていく。

Q 跡地は計画を立てて有効活用を。(東荷)

A 跡地については、市全体として活用方法を検討していく。

■要望等

- ・4地域平等の視点から、新校舎を整備してほしい。(岩田)
- ・大和スポーツセンターに、小中学校が1つの屋根の下に入った「合体タイプ」の施設を希望する。(東荷)
- ・地域から学校がなくなると求心力がなくなることが危惧している。(東荷)
- ・義務教育学校への移行について検討してほしい。(東荷)